サンフロント21懇話会30周年事業

取材通じ 地域課題に向き合う

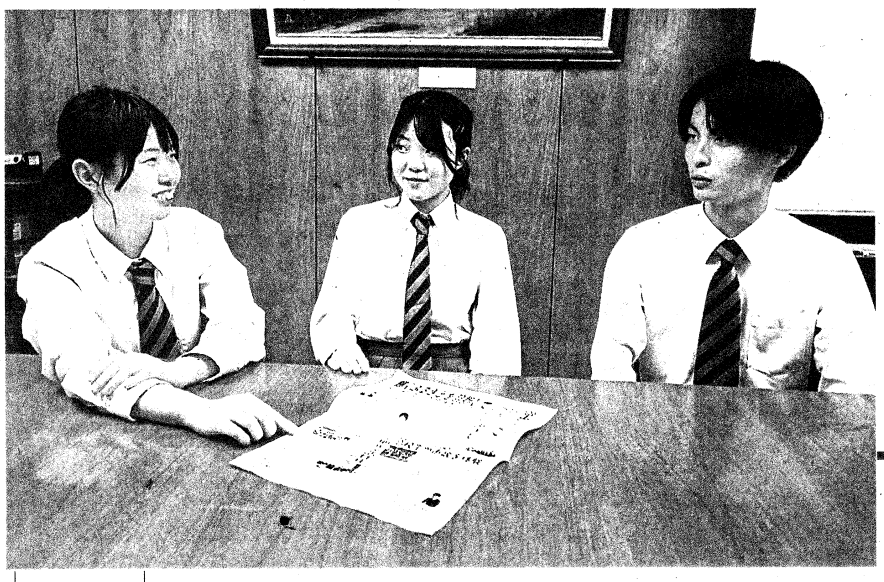
県東部3高校 新聞制作

若い世代が考える県東部・伊豆地域の未来は―。静岡新聞社・静岡放送の「サンフロント21懇話会」30周年記念事業の一環で、富士東、沼津東、韮山の各高校が「10年後を見据えた輝く地域づくり」をテーマにした新聞制作に取り組み、静岡産業大の「東部・伊豆サークル」が地域資源の調査を通じて将来構想を策定した。沼津市内で12日に開かれる懇話会の30周年記念総会で成果を発表する。（東部総局・中村綾子）

富士東高新聞部、沼津東高新聞部、韮山高写真報道探究部は昨年7月から、それぞれが設定したテーマで取材や記事の執筆、紙面作りに取り組んできた。

富士東高新聞部は「地元で活躍する同世代のリアルな声を聞いてみたい」との思いから、中高生が学校の垣根を越えて活動する富士宮高校会議所と、富士市内の高校生が市当局と意見交換する高校生議会の活動を取材した。富士宮高校会議所については特産品のニジマスを使った堆肥づくりや、「笑い」をテーマにしたイベントの開催など多岐にわたる活動を紹介。会頭経験者へのインタビューを通じて生徒たちの〝地元愛〟を伝えた。昨年開かれた富士市高校生議会の様子もリポートした。

取材を担当した松浦大翔さん（3年）は「同じ世代がこんなにも地元のことを考えているのかと驚いた」と振り返る。部長の平田美優さん（同）は「ネットでも情報は得られるが、新聞は実際に見て、聞いた記者の感動を届けられる。まず私たちが地域を知ることの大切さを再認識した」と強調した。



「同世代の活躍に刺激を受けた」と話す富士東高新聞部の生徒＝5月下旬、富士市の富士東高

富士東

同世代の地元愛 後押し

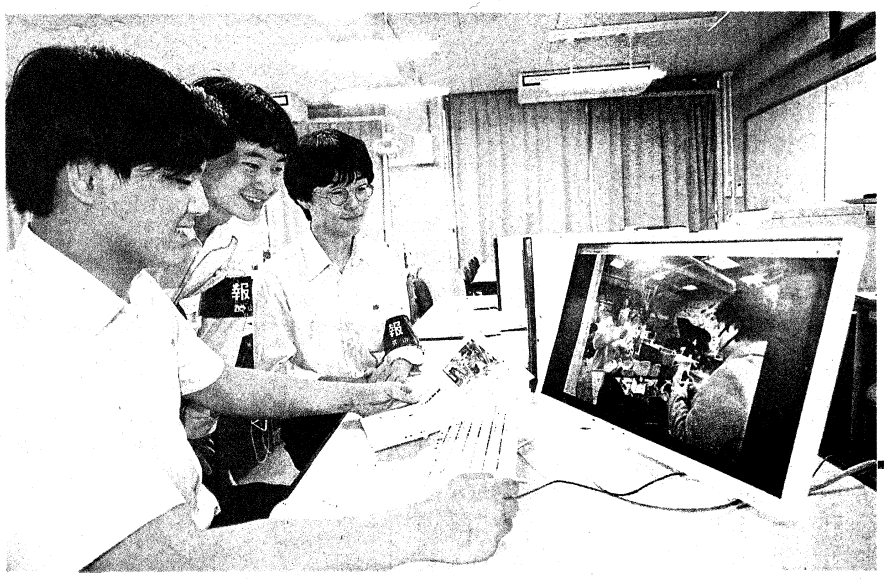
考案したサイクリングルートを紹介する沼津東高新聞部の生徒＝5月下旬、沼津市の沼津東高

沼津東高新聞部は地元で普及しつつあるシェアサイクルをテーマとし、三島市や長泉町で展開する民間事業者や自治体の担当者を取材。通勤・通学での利用が多く、観光目的であまり利用されていない現状を踏まえ、県東部の観光地を生徒自ら自転車で巡ってモデルコースをつくった。

通学に自転車を利用する山根晶乃さん（2年）は「バス路線が縮小するなど公共交通に不便さがある中、自転車が生かせるのではないかと思った」とテーマ設定の理由を語る。モデルコースの作成では、JR三島駅から沼津港を目指して走行した。紙面では自転車観光の魅力を紹介するとともに、路面標示や道の狭さなど環境に着目し「安全に走行できるよう、統一的な施策を」と提案。金野莉子さん（2年）は「住民も観光客も満足できるような地域づくりにつながるとうれしい」と期待した。

沼津東

自転車観光ルート 提案



紙面制作を振り返る韮山高写真報道探究部の生徒＝6月上旬、伊豆の国市の韮山高

韮山高写真報道探究部は少子高齢化を象徴する存在として「廃校」をテーマに据え、校舎の活用が地域活性化につながっている事例を取材した。熱海市の旧網代小をリニューアルした「AJIRO MUSUBI」と、伊豆市の旧土肥小を活用した「土肥集学校」に出向き、運営事業者や利用者へのインタビューを通じて地域ににぎわいが戻ってきている様子を伝えた。廃校の利活用について伊東市の担当者に取材し、行政側の声も紹介した。

取材を通じ「これまで見えなかった運営側の視点を知ることができた」と話すのは加藤聡さん（2年）。紙面のコラムでは、若者が戻ってくるための雇用創出の必要性なども指摘した。最川翔平さん（3年）は「行政任せにせず、地域のために動く人たちの姿が印象的だった。単ににぎやかさを求めるだけでなく、地元に戻ってこられる環境づくりが大切」と言葉に力を込めた。

韮山

廃校の利活用 事例探る

▲東部の3高校が作った新聞はこちらから見ることができます